

スケッチャーパレットとは

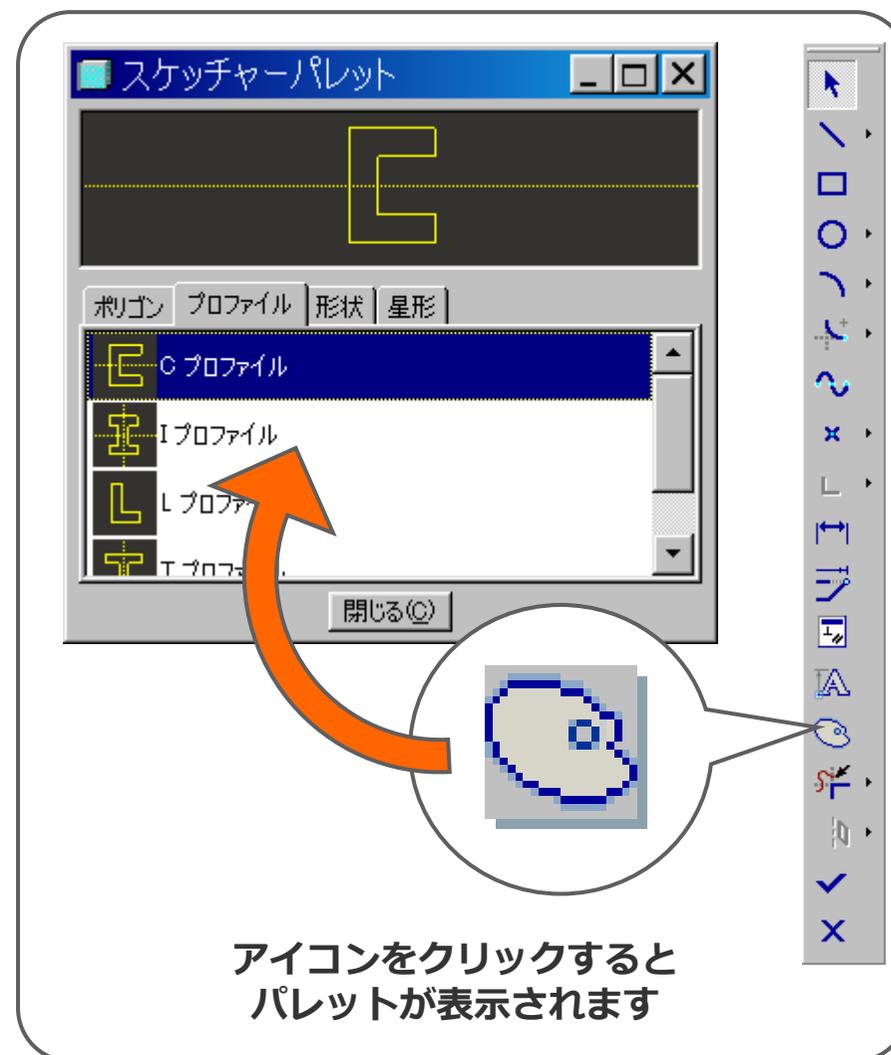
対応バージョン:WF3以降

Wildfire 3.0(WF3)以降に機能追加されたスケッチャーパレットについて解説します。

よく利用するスケッチは以前から「**スケッチ**」(.sec)ファイルとして保存し再利用することができました。これは現在のWF5でも変更はありませんが、WF3からは更に再利用しやすいように「スケッチャーパレット」が登場しました。

スケッチャーパレットにアクセスするには、スケッチャーのスケッチツールバーからアイコンをクリックします。

*メインメニューから[スケッチ]>[ファイル使用データ]>[パレット]の順にクリックしてもアクセスできます。



パレットからスケッチをとりだす

パレットから既存のスケッチをとりだすには、タブから希望のスケッチを画面にドラッグするか、ダブルクリックして適当な配置先をクリックします。

* 配置はあとで調整できますので、この段階ではあまり配置場所を気にしないようにします。

画面にドラッグ



または

ダブルクリック後配置先をクリック



ドラッグするか
ダブルクリックして適当な配置先をクリック

スケッチを調整して配置 (1)

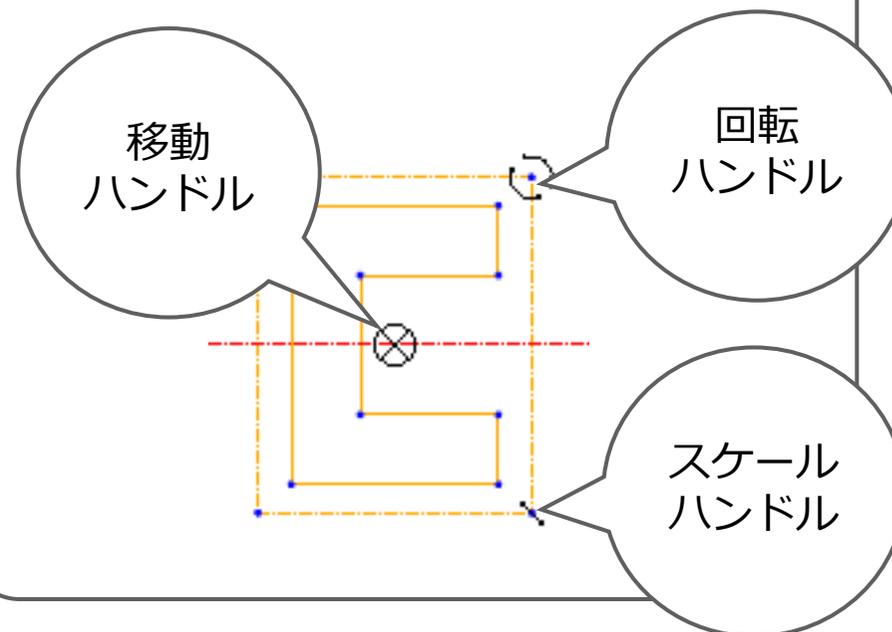
スケッチが画面に配置(仮配置)されるとスケッチが表示されると同時に画面右上に「スケール回転」ダイアログボックスが表示されます。

スケールの項目にオリジナルスケッチからの「スケール」、「回転」の値を入力することができます。

また画面上のスケッチには、回転とスケールハンドルが表示されており、それらをドラッグしても、スケール、回転を調整できます。値はリアルタイムにダイアログに表示されます。中心には×マークのハンドルがあり、ドラッグすることで位置を調整できます。



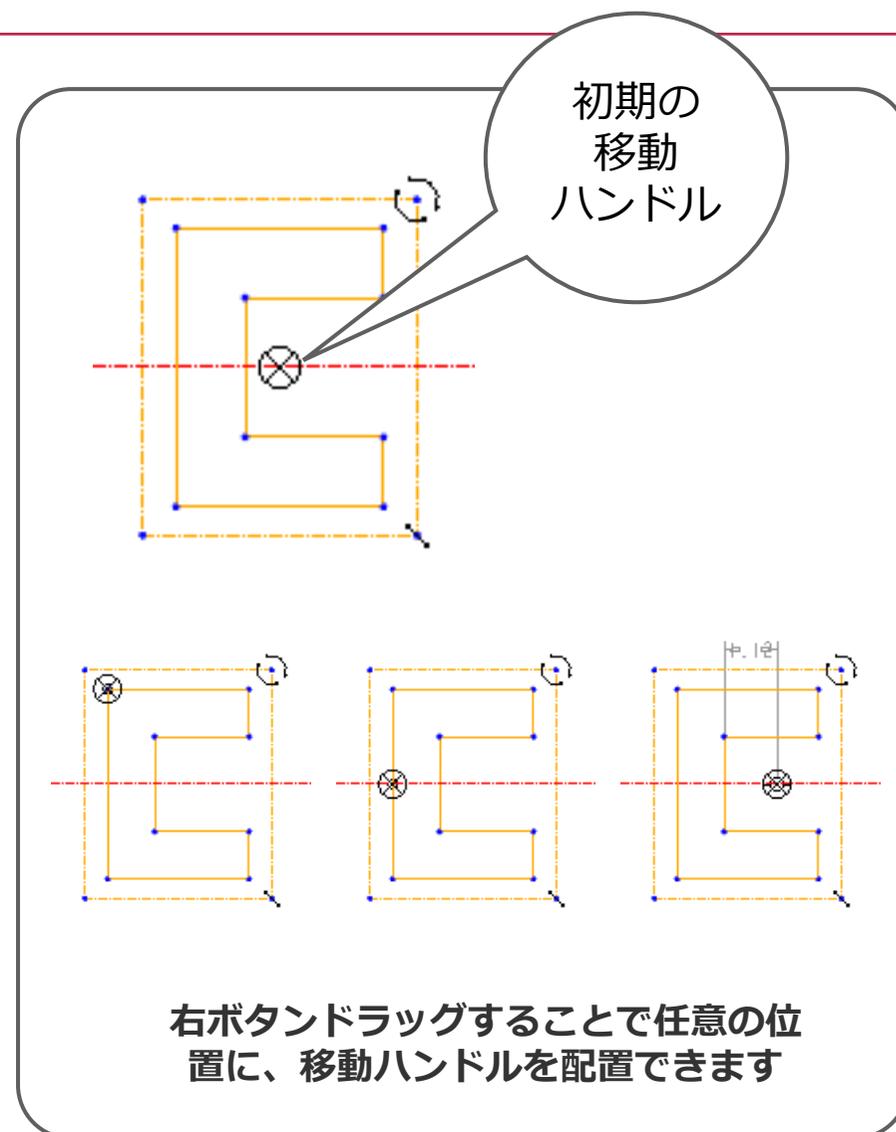
スケール値、回転値を調整できます



スケッチを調整して配置 (2)

デフォルトでは、移動ハンドルは、スケッチの中心に配置されます。

しかしながら、移動ハンドルは、配置位置を決めるためにも使用するもので、適切な位置に置かれなければなりません。このようなときには、移動ハンドル上で右ボタンドラッグすることでハンドルを任意の位置に移動できます。線上や端点上にもスナップできます。



スケッチを配置完了

配置完了したら、ダイアログ内の緑のチェックボタンをクリックするか、マウスの中央ボタンをクリックすることで配置を完了できます。

配置されたスケッチの寸法は自由に調整が可能です。



配置完了
はここを
クリック

マウスの中央ボタンでも完了可

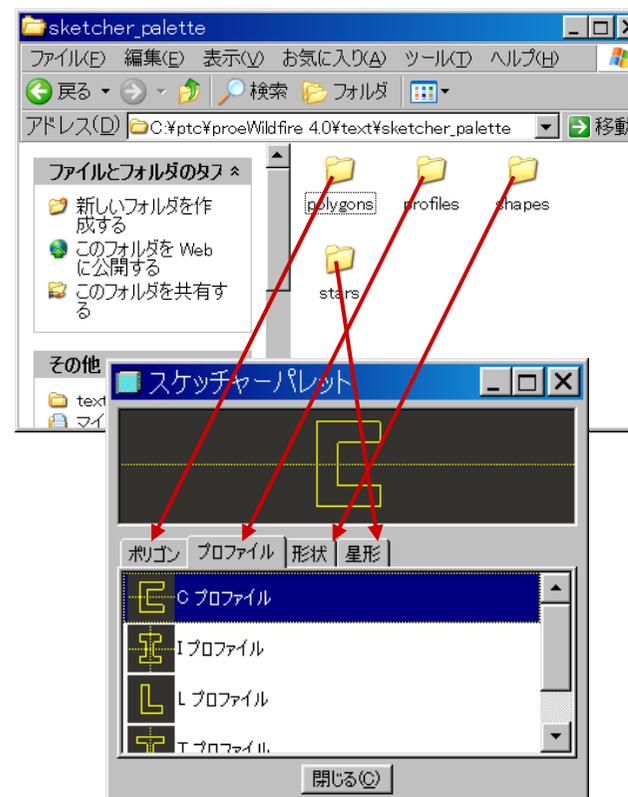
パレットに表示するスケッチファイル(.sec)の配置場所

今後再利用したいスケッチは、適切なフォルダに保存することで、いつでもパレットに呼び出せます。Pro/Eはパレットに表示するファイルを次のフォルダから検索します。

- デフォルトフォルダ
- config.proで指定されたフォルダ
- 現在のワーキングディレクトリ

デフォルトフォルダは、Pro/Eのインストール先の下記のようなフォルダです。

C:\\$ptc\\$proeWildfire 4.0
 \\$text\\$sketcher_palette



デフォルトフォルダと現在のワーキングディレクトリのスケッチがパレットに表示されている

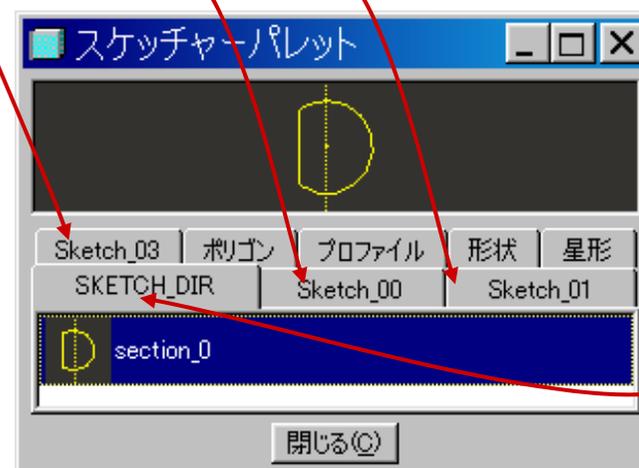
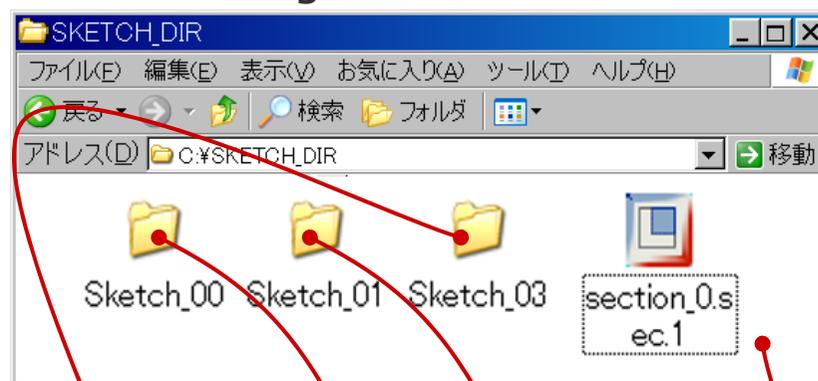
スケッチャーパレットのconfig設定

config.proでスケッチファイルの保管場所を指定する場合

sketcher_palette_path

を保存先を指定します。たとえば sketcher_palette_path C:¥SKETCH_DIR と指定すると、指定したディレクトリより下にある.secファイルがパレットに表示されます。ディレクトリ内でフォルダ分類されていた場合はフォルダ名がパレット内のタブとして表示されます。

configで指定されたフォルダ



指定フォルダがパレットに